

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。  
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

4/12.18

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
30-04-09	1551008-ツ126		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
1551-0080-211058*****			
お取引金額			
000000000000	¥6,650*		
お取引種別		お取引後残高	
支払い *****			
手数料	¥432	ページ	硬貨
時刻	12:30	おつり	
滋賀銀行 唐崎支店 "イ)セ"ソコクツチヨクソソクソクソウサ"イタ ソ様 普通 0000461158 ソソソソソソ"カイクカクソソ"様 TEL053623-5482			
印紙税申告納 付につき豊橋 税務署承認済		ご利用ありがとう ございました。	

豊橋信用金庫

11/1.2

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。  
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
30-10-22	1551008-ツ117		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
1551-0080-211058*****			
お取引金額			
000000000000	¥432*		
お取引種別		お取引後残高	
支払い *****			
手数料	¥432	ページ	硬貨
時刻	09:21	おつり	
京都北都信用金庫 東舞鶴中央支店 "ヤ)キョウトフホクフ"チイレソクケイト様 普通 0000596282 タキカワ ケソソ"様 TEL053623-5482			
印紙税申告納 付につき豊橋 税務署承認済		ご利用ありがとう ございました。	

豊橋信用金庫

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。  
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
30-10-22	1551008-ツ116		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
1551-0080-211058*****			
お取引金額			
000000000000	¥11,368*		
お取引種別		お取引後残高	
支払い *****			
手数料	¥432	ページ	硬貨
時刻	09:18	おつり	
京都北都信用金庫 東舞鶴中央支店 "ヤ)キョウトフホクフ"チイレソクケイト様 普通 0000596282 タキカワ ケソソ"様 TEL053623-5482			
印紙税申告納 付につき豊橋 税務署承認済		ご利用ありがとう ございました。	

豊橋信用金庫



# 研修報告書

平成30年4月30日

新城市議会議長 様

滝川健司



以下、研修に参加しましたので報告致します。

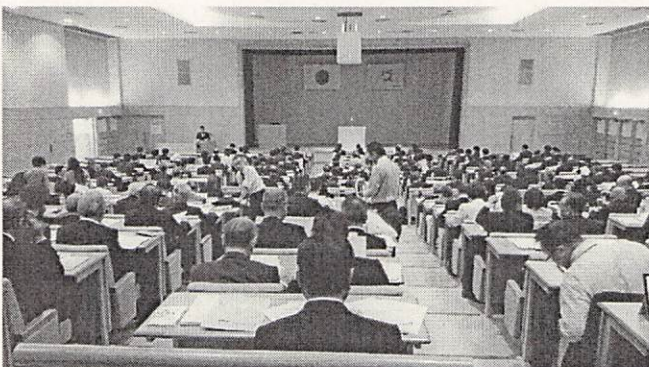
1. 研修日 平成30年4月12日(木)～13日(金)
2. 研修場所 全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号)
3. 研修内容 平成30年度 「第1回市町村議会議員特別セミナー」  
日程及び詳細は別紙による
4. 派遣員 滝川健司
5. 経費 政務調査費を使用
6. 行程 公共交通機関(JR)を使用
7. 研修内容報告・所感

## 講義1 「豊岡の観光戦略 ～Local&Global～」

講師：兵庫県豊岡市長 中貝宗治 氏

人口8万2千人、人面積700km<sup>2</sup>の豊岡市。2040年予測では人口5万7千人、目標人口6万2千人。観光客4,185千人、宿泊客1,178千人、インバウンド51千人。「貧しい地方」と「豊かな都市」、地方は貧しくてつまらない！地方は閉鎖的でチャンスも出番もない！→「地方で暮らす価値の創造へ！」インバウンドによる通年雇用の創出、総合コミュニケーション産業としての観光。「小さな世界都市」の実現を目指し、世界に通用するローカルを研く。コウノトリと共に生きる豊岡の挑戦。何を失ったのか、どの様に取り戻すのか。「環境と経済の共鳴」情報発信、知らなければ存在しないと同じ。

リーダーの発想そして行動力・実現力の大切さや地域資源の活かし方など、学びを得られた機会となりました。“夢はでっかく 根は深く” “願うこと 願い続けること 投げ出さないこと”





## 講義2 「観光立国と地方創生 ～インバウンドが切り拓く地域の未来～」

講師：一般社団法人、日本インバウンド連合会理事長 中村好明 氏

戦略とは、「すでに起こっている未来を体系的に探すこと！」

公共哲学、公共世界、公共哲学的視点の重要性。

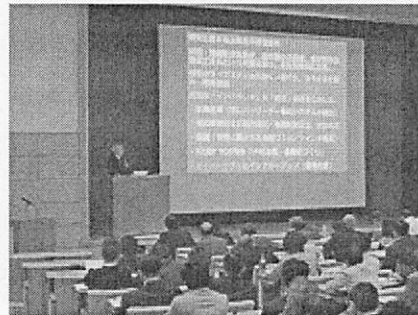
工業デザイナー水戸岡鋭治氏の言葉をモチーフに将来のわが国の観光立国実現に向け、「米仕事＝自分・自社の稼ぐための仕事」に加えて、「花仕事＝地域社会のための公共への奉仕・貢献」が重要になる。

各地域のインバウンド成功には、この2つの仕事を同時並行的に行

うことが不可欠とのこと。米+花=糶、糶がないと日本酒はできない、両方の仕事が必要。地域のバラバラの利害を超え、官民の壁を越えて各要素を統合し、おいしいお酒（一体感のある地域）を醸す力を備えたリーダー、「糶」となる人材が不可欠とのこと。

未来を創る5つの「き」、意識、知識、勇気、天気、景色。そして観光立国の「5者」、若者、ばか者、よそ者、切れ者、本物。

観光立国とは、哲学的立国である。わが町を知ることから始まる。花仕事の重要性、公共哲学的視点を持つ必要性を認識。



## 講義3 「観光・地域振興の在り方を考える ～観光は地域を元気に出来るか～」

講師：立教大学観光学部教授 観光研究所所長 東 徹 氏

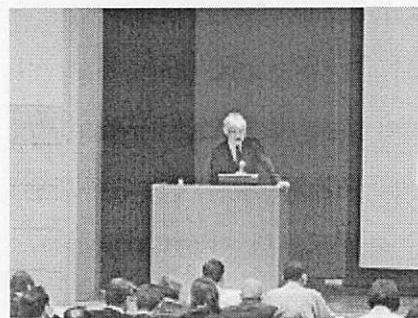
観光とは、光を観る、光をしめす。住んでよし、訪れてよしの地域づくりである。

住む人は、地域の光をよりよく自覚し、誇りと愛着を持つ。

訪ねる人には、地域の光をよりよく感じさせる経験と価値を。

観光資源はいたるところに眠っている。それを観光対象にする仕方に問題がある。あらゆるものが観光集客資源、材料を見つけ調理する仕方が重要。地域の多様性と資源の偏在が観光魅力である。住民が中心となって、観光まちづく

りをすることが重要とのこと。



## 講義4 「京菓子老舗女将のとおきの話」

講師：笹屋伊織 女将 京都観光おもてなし大使 田丸 みゆき 氏

京都人のおもてなしに学ぶ。「京都では、人様からものをもらわるときは、3回は断ってから」「1回で受け取ってしまつたら、もう帰ってもらわんとあかん。」「3回断るといふのは、ただ遠慮してるんじゃなくて、3回断る間にコミュニケーションをとったりわざわざ足を運んでくれはつたことをねぎらうために3回断るん



だやで。」こんなエピソードから京菓子老舗女将の講演は始まりました。“おもてなしと3つのけち”女将がいつも心に決めているおもてなし。「情報のけち」「能力のけち」「ご縁のけち」この3つをケチらない事が大切とのこと。300年続いてきた老舗を守ってきた女将の一言一言に重みがあり、おもてなしという「言葉」を通して人との関わり方の大切さを改めて教えられました。

本セミナーでは、観光をテーマに各分野で活躍の講師の方々の講演を聴講しました。

多方面・多分野に経済波及効果の大きい観光は、地域活性化、雇用機会の増大などが期待されます。地方の本格的な人口減少時代において、これからの地域の活力の維持向上のために、地域全体の価値を向上させ、観光による地域づくり、まちづくりを進める方策の重要性を再認識したセミナーでした。




# 研修報告書

元  
5/14

平成30年11月30日

新城市議会議長 様

滝川健司 

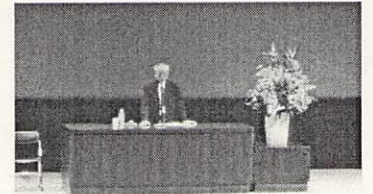
以下、研修に参加しましたので報告致します。

1. 研修日 平成30年11月1日(木)～2日(金)
2. 研修場所 京都府舞鶴市
3. 研修内容 平成30年 第12回 全国水源の里シンポジウム  
(詳細は別紙資料参照)

4. 旅 費 政務活動費を使用
5. 行 程 公共交通機関(JR)を使用
7. 研修報告・所感

## ■基調講演「農山漁村と都市の共生」 講師：大森 彌 氏 (東京大学名誉教授)

「骨太の方針2001」と「都市と農山漁村の共生と対流」 都市は感謝し、農山漁村は都市を思う。「地方消滅」論と「まち・ひと・しごと創生法」は、人口政策法である。人口減少と地方創生、キーワードは外国人。田園回帰の流れは、村向都市離れの新しい生き方であり子ども達を追い出している。「水源の郷」と共生のカタチ、他の人の気持ちを分かり思いやる心が大切。



## ■事例紹介

「広域連携・北部地域連携都市圏の取組」 多々見良三 氏 (舞鶴市長)

「関係人口という新しい共生のカタチ」 田中輝美 氏 (ローカルジャーナリスト)



## ■パネルディスカッション

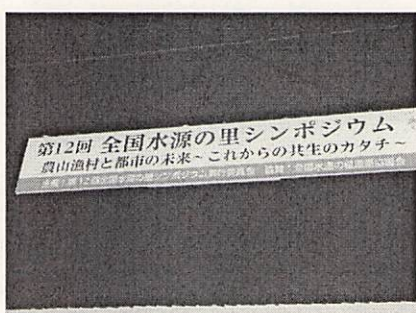
コーディネーター 杉岡秀紀 氏 (福知山公立大学准教授)

パネリスト 霜尾誠一 氏 (地域の実践者・舞鶴市西方寺平)

田中輝美 氏 (ローカルジャーナリスト)

田村篤史 氏 (京都移住計画代表)

菅野良平 氏 (東京都特別区長会事務局調査第1課長)



(パネラー発言)

- 地方対都会の構図から、地方と都会が水平に付き合う時代に変化している。
- 都会には、ふるさとは無い若者が田舎に興味を持っている人が多い。
- 田舎が大変だ大変だと騒いでいる大人が、自分の田舎に誇りを持っていない、そんな大人を見て、子供たちは地元に残るのか？帰ってくるのか？
- 移住定住で、わが街に来て来てとアピールも大事だが、街の課題を知らせて、都会の若者と一緒に取り組む 関係人口 という人口を増やす。

## 《大会アピール》

- 一 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく流域連携の必要性を全国にアピールすると共に、農山漁村と都市の情報交換、交流・連携を通じて水源の里の持続的展開を目指します。
- 一 水源の里に対して関心を持ち、地域に関わる人々を増やし、新しい人の流れ、新しい共生のカタチをつくることにより、水源の里の活性化を進めます。
- 一 私たちは、水源の里に宿る心と文化を大切に、自然と向き合う人間の生き方を示し伝える人材を育て、未来に生きる子どもたちに自身と誇りを持って水源の里を引き継いでいきます。